『読んでホクホクお芋もいいけど読書もね！』

～おとなの課題図書 2019 秋冬～

図書館員からのお薦めの図書です。
芋づる式に、次々と読んでください。

〔三島市立図書館　コメント一覧　全 30 冊〕

1　『人間関係をしなやかにするたったひとつのルール』

渡辺奈都子／著　ディスカヴァー・トゥエンティワン　146.8

心理カウンセラーの著者は、人間関係の背後で「外的コントロール心理学」と「選択理論心理学」の２つが働いていると著しています。その２つの心理学を「２つの島」に例えて紹介し、どちらの心理学の考え方を選択するかを問いかけています。どちらが人間関係をしなやかにするのでしょうか？

読みやすく、わかりやすい表現の一冊です。

2　『わたしも昔は子どもでした。』

『子どものしあわせ』編集部／編　かもがわ出版　281.04ワ

昔、子どもだったおとなたちが語る　子どもにとって本当に大切なことー　香山リカ・落合恵子・上野千鶴子・宇都宮健児など１７人の子どもな日々が描かれています。育ててくれた人たち、記憶に残る言葉が、素敵なイラスト・読み易い大きな文字・たっぷりな行間のおかげですっと頭に入り、心にしみ込みます。「子どもは、大人のありのままの姿から学ぶもの」「何か起きたときに守ってくれるおとなが大事」「しつけや教育の場でないところで認めてあげて」等々心に響く言葉がいっぱいです。

3　『論語と算盤ー現代語訳ー』

渋沢栄一／著　守屋淳／訳／著　ちくま新書　335.13

道徳と経済活動を結びつけて考えることを説いた渋沢の講演を文章にし、現代語にまとめなおした著書。渋沢栄一氏は「正しい」お金の儲け方をすること、また、お金を「うまく」使っていくことが社会を活発にして国を成長させるという考えで日本を近代化させた偉人。「人生の運は天命により決まっていたとしても自身の努力で運を掴む」、「細心な努力と大胆な気力ではつらつとした大事業を成し遂げられる」という考え。また、女子教育の大切さが 100 年前から唱えられています。今を生きぬく皆さん全員におすすめしたい一冊です。

4　『自衛隊防災 BOOK』

マガジンハウス／編　マガジンハウス　369.3

近年、大型台風、集中豪雨、竜巻、地震などの災害が各地で起こっています。自衛隊はいざという時には、救助活動に尽力されます。この本では、自衛隊に伝わる災害時のトラブルに役立つ様々なテクニックやアイデアをわかりやすく紹介しています。いつどこで起こるかわからない大災害に備え、自分や周りの人を守る知識として、参考にしたいです。

5　『鉄道車両陸送ー闇夜に繰り広げられる、圧倒的に非日常な光景ー』

菅野照晃／著　イカロス出版　536

道路を走る新幹線、見たことありますか？
鉄道車両をトレーラーに載せて、一般道を走り目的地へと運ぶことを「陸送」というそうです。トレーラーに載った鉄道車両は、いつも乗っている物と同じ車両とは思えないほど大きくて迫力満点です。鉄道好きの次男も父と同じく「うわー！すごいねぇー！」と大喜びです。県内では、浜松の新幹線車両基地内に愛知県豊川市から「陸送」がおこなわれているそうで、真夜中のお出かけに興味津々です。

6　『和スープ-からだを変える、思いやる-』

岩崎啓子／著　日東書院本社　596 イワ

もともと野菜不足気味だったので、沢山お野菜を摂れる調理法はないか考えていたところ、この本と出会いました。これから寒くなる時期、心も身体もほっこりできるスープは身近な食材で簡単に作れます。自分や家族の身体を思いやるために、お出汁の効いた、お野菜たっぷりのおもいやりスープ作ってみませんか?

7　『猟師の肉は腐らない』

小泉武夫／著　新潮社　659

「電気も水道も無くたって、こんなに豊かで究極の生き方がある」先人から受け継がれた保存食や、厳しい自然から身を守る知恵と工夫は、驚きを超えた感動があります。

発酵学を専門とする農学博士ならではの見方と、ユーモラスな表現に引き込まれます。

8　『ねこと国芳』

金子信久／著　パメラ三木／訳　カーステン・マッカイバー／訳
パイインターナショナル　721.8 ウタ

江戸時代の人気絵師、歌川国芳（1797-1861）は多くの猫の浮世絵を残しています。国芳はユーモラスで可愛らしく、そして愛情深く猫を捉えています。浮世絵というと馴染みがなく、難しい印象を持つ人もいるかもしれません。

現代でも変わらず人気のある猫を国芳はどう描いているのか、この本をきっかけに浮世絵の魅力に触れてみてください。

9　『あるかしら書店』

ヨシタケ シンスケ／著　ポプラ社　726.6 ヨシ

「こんな本あるかしら？」と、いろいろな発想の本や本に関係するお話が出てきます。ちょっとリラックスしたい時にどうぞ。

10　『ニッポンのはたらく人たち』

杉山雅彦／著　パイインターナショナル　748 スキ

静岡出身・在住の写真家が、働く人を撮った写真集。一つの会社で働く仲間を一枚に収めた集合写真。偶然、一瞬で撮られた写真はとても楽しく、生き生きとした表情はこちらを元気にさせる。近隣では淡島マリンパークが掲載。お仕事を紹介するフリーペーパー「コドモンデ」の表紙として撮影されたものでもあり、この職業楽しそうと思わせる写真。この「コドモンデ」が本になった『コドモンデ まちのお仕事図鑑』(K379 コ禁帯)もあわせて館内でご覧ください。

11　『極北圏のあやとり－極寒の中から生まれた文化遺産－』

野口とも／著　誠文堂新光社　798

極北圏に伝わるあやとりを集めた本です。紐さえあれば誰でも挑戦できるあやとりですが、日本での生活では思いつかないような「カヤックをこぐ人」に「シベリアの家２階建て」、「アザラシ猟師」などのあやとりや、「肋骨」や「目と口」など、人体を表現したあやとりも紹介されています。巻末には初級・中級・上級にわけられたあやとりのとり方が載っているので、日本のものとは違ったあやとりに挑戦することもできます。

12　『会社を綴る人』

朱野帰子／著　双葉社　913.6 ｱｹﾉ

主人公は仕事もコミュニケーションも苦手なアラサー男子。派遣社員を 10 年続け、32 歳の春にようやく製粉会社の正社員となった。彼の唯一の特技は、読み書きする能力が人より優れているということ。どうにか入社することができた会社で彼の特技は役立つのか…。最後まで読み進めていく中で「会社を綴る人」というタイトルになるほどな！と納得した。
現代の資料のデータベース化についても考えさせられるお仕事小説。

13　『キケン』

有川浩／著　新潮社　913.6 ｱﾘｶ

成南電気工科大学機械制御研究部。通称【機研】。クセの強い理系男子が集まったサークルの伝説的黄金時代を描いた物語です。機械オタクたちが集まって滅茶苦茶なことをやりはじめます。でも学生の時しかできない無茶って楽しいですよね。【機研】の危険な物語をぜひお楽しみください。若い人向けです。

14　『オー!ファーザー－a family－』

伊坂幸太郎／著　新潮社　913.6 ｲｻｶ

タイトルから予測できるように父親が出てくる物語です。ですが、この物語の主人公の父親は４人います。個性的な４人の父親とごく普通の高校生の男の子が主な登場人物です。特殊な設定ですがそこが面白く４人の父親が主人公をとても大切にしているのが文章から伝わってきます。ラストは一気に読むことができます。

15　『ツバキ文具店』

小川　糸／著　幻冬舎　913.6 ｵｶﾜ

舞台は、鎌倉。小高い山のふもとにある小さな一軒家で、ツバキ文具店を営んでいる雨宮鳩子。文房具を売る傍ら、代々受け継がれてきた家業の代書屋を生業としていた。一人暮らしで親しくしている人も少ない鳩子だったが、持ち込まれる様々な代書の依頼に奮闘していくうち、彼女の周りには個性豊かな人々が集まっていった。
様々な経験を積み重ね、鳩子は自分自身と向き合い成長していく。伝えたかった気持ち、大切にしている想い。最後には自分のために、筆を走らせる…。日常を描いた、心温まる一冊です。

16　『化物蝋燭』

木内　昇／著　朝日新聞出版　913.6 ｷｳﾁ

この世のものではない者たちとの妖しくも切ない話が丁寧に描かれていて読み応えのある短編集。幻と現のはっきりしない世界観も好ましい。怖ろしい怪談話かと思って読むと、実は江戸情緒漂う人情話。
人の優しさと情念がじんわりと胸に沁みる一冊です。

17　『図書室のキリギリス』

竹内 真/著　双葉社　913.6 ﾀｹｳ

本との出会いを求めているあなたへ！ぜひおススメしたい本。実在する本たちが多数登場！
本との出会いによって、人と人が繋がる。思いが伝わる。世界が広がる。そして今の自分、これからの自分を変えてゆく。そんな登場人物の心のあり様を描く、本にまつわる謎解きミステリー。
謎解きを楽しみながらあなたを変える一冊に出会えるかも。

18　『いとの森の家』

東　直子／著　ポプラ社　913.6 ﾋｶｼ

父の思い付きで、福岡市内の団地から田舎に引っ越してきた小学校４年生の加奈子。最初は戸惑うこともありましたが、豊かな自然の中でのびのびと暮らし始めます。お友達と仲よく遊んだり、近所の仲良しのおハルさんからいろいろな話を聞いたり。
様々な経験をしていく中で、加奈子は素直な心で感じ、考え、成長していきます。

19　『五分後の世界』

村上 龍／著　幻冬舎　913.6 ﾑﾗｶ

日本は第２時世界大戦の降伏により高度経済成長を遂げ現代にいたっている。 もし、日本が降伏をせずに連合国と戦い続けていた仮想世界を描くＳＦ小説。著者は現代日本をアメリカの価値観の奴隷状態になっていると痛烈に風刺し、アメリカでもてはやされている生活のスタイルがそのまま理想とされ、外交面ではアメリカの望む政策しか取れなくなり、日本の外交政策決定力のなさが国際的なトラブルの原因になり得ると弾劾する。
読者に対し、敗戦により日本人が失ってしまったものは何かを考えさせられるメッセージ性の高い作品。

20　『異類婚姻譚』

本谷有希子／著　講談社　913.6 ﾓﾄﾔ

夫婦は長年一緒にいると顔が似てくるとよく言われますが、周りを見ると、「あっ・・・。」と思うことも。でも自分のことは良くわからないものです。この話はそんな状況を面白おかしく描いてはいるのですが、気が付くと恐怖が渦巻いています。相手を受け入れることは大切ですが、度が過ぎるとどうなっていくのか・・・。主人公を取り巻く人物たちも何気なく登場していますが、よくよく考えてみると、面白いのか、怖いのか。
さらっとしていながらも深みのある、秋の夜長にぴったりの一冊です。

21　『癒し屋キリコの約束』

森沢明夫／著　幻冬舎　913.6 ﾓﾘｻ

昭和歌謡喫茶「昭和堂」には神社ではないのに何故か賽銭箱が置いてある。金にがめつく不真面目なオーナーの霧子は人々の悩みを聞いて解決する「癒し屋」を裏稼業としている。謝礼はお布施として賽銭箱へ。難しい問題も予想外な方法で解決に導く霧子のもとには今日も相談者がやってくる。

いい加減なのにいい加減じゃない霧子の人生相談が心にしみます。

22　『ルパンの娘』

横関　大／著　講談社　913.6 ﾖｺｾ

主人公の三雲華は泥棒一家の娘。そんな華の恋人桜庭和馬は警視庁捜査一課の刑事で警察一家の息子。　ある日、華の祖父が殺される事件が起きた。捜査することになったのは和馬。

事件はどうなるのか、２人の関係は…。

ドラマ「ルパンの娘」の原作です。ドラマは脚色されていて原作と違う部分もありますが、ここ違うと思ったりしながらも話の展開に引き込まれて読み進めてしまうこと間違いなしです。

23　『抽斗のなかの海』

朝吹真理子／著　中央公論新社　914.6 ｱｻ

デビューから 10 年、芥川賞作家はじめてのエッセイ集、と、帯にあります。　著者の朝吹さんが初めて発表したエッセイ「放心」は、三島に旅した一晩を描写したものでした。

『川上も川下もなくひたすら流れてゆくだけの川があればいいのにと思う。川筋が途切れてしまうと帰らねばならないから（後略）』

上品な筆致で自己解放を願う密やかな情熱を綴る力量に、本人の願望とは逆に着実に積み重ねてきた 10 年分の成長を感じます。

24　『いまを生きる言葉「森のイスキア」より』

佐藤　初女／著　講談社　914.6 ｻﾄ

著者の佐藤初女さん（1921～2016）は青森県岩木山麓で「森のイスキア」を開き、長年悩みを抱える人を受け入れ、その人々に寄り添ってこられた方でした。そして初女さんのしていた活動とは、訪れた人々に手作りの料理を出して、一緒に食べ、一人一人の話をじっくり聞くというものでした。　イスキアに訪れた人は話しているうちに自分で自分の気持に気づき、力を取り戻して帰って行ったようです。

悩みや迷いがあっても、一歩踏み出すことで何か解決の道があると思わせてくれる一冊です。

25　『鳥はみずからの力だけでは飛べない』

田口ランディ／著　晶文社　914.6 ﾀｸ

作者が不登校になった友人の子に向けて書いた 10 通の手紙。
人は自分を棚上げすることなくどれだけのことが語れるのか。
決して上からの物言いではなく、自然に寄り添うように…

親でもなく、先生でもない、でも親身になってくれるひとからのメッセージ。悩める 10 代へ　子を持つ親へ　そして本のタイトルに共感したすべての人に贈ります。

26　『街と山のあいだ』

若菜晃子／著　KTC 中央出版　914.6 ﾜｶ

雑誌「山と渓谷」の元副編集長が書いた山をテーマにしたエッセイ集。山登りを趣味としない自分が読んでいても山っていいなあ、登ってみたいなと感じ、山登りをする人はもちろん自分の体験に重ね合わせて楽しめ、それぞれの楽しみ方ができます。「低い山でも登ることで、日常生活とは別の世界に行くことができる。・・そこに行きさえすれば自分自身に立ち返って安らげる。・・」著者の心温まる言葉で綴られている文章に、山ではなくても人それぞれそういう別の世界を持っている幸せを感じさせてくれ、読んでいて心を穏やかにしてくれる本です。

27　『向田邦子全集６　新版　エッセイ２』

向田邦子／著　文藝春秋　918.68 ﾑﾑ

向田邦子は家族を書かせたらピカーだと思います。これぞ昭和の父親像と思う逸話が嫌味ではないのが好きです。中でも『字のない葉書』は、厳格だった父の、家族愛に満ちた一面がみられてホロリときてしまいます。今しつけと称して虐待にはしる、切ないニュースを聞いたりしますが、親の真の愛情とはこういうものだと感じさせられます。このお話は、角田光代/文、西加奈子/絵で絵本にもなっていますので、読み比べてみるのもお薦めです。

28　『ジェニィ』

ポール・ギャリコ／著　古沢安二郎／訳　新潮社　B933 ｷｬ

主人公の男の子は、交通事故にあい、猫に変身してしまいます。カフカのように大きな虫になったわけではないけれど、野良の白猫として生きていくのは大変で…。猫としての暮らしの中で、いろんな猫と出会い、衝突や初恋を経験し成長していく少年の姿をあたたかく綴ったファンタジーです。

作者は何十匹も猫を飼っている猫好きなだけあって、さすがの猫目線。猫の世界が自然に感じられます。猫派の方は同著者の『まぼろしのトマシーナ』『猫語の教科書』『猫語のノート』もどうぞ。

29　『極北』

マーセル・セロー/著　村上春樹/訳　中央公論新社　933 ｾﾛ

訳者あとがきより。

「この小説は先が見えないというか、話がどんどん意外な方向に伸びていくので、前もって設定や筋がわかってしまうと面白くない。できればまっさらな頭で物語を愉しんでもらいたいと思う。」

FAR NORTH 今回は原タイトルからのイメージを大切に、主人公メイクピースの軌跡を私たちも一歩一歩たどっていこう。

30　『ボブという名のストリート・キャット』

ジェームズ・ボーエン／著　服部京子／訳　辰巳出版株式会社　936 ﾎｴ

飼い主とペット…ではなく、人生のパートナーといえる存在になったイギリスの青年と一匹の猫の物語です。麻薬中毒に苦しむホームレスの青年ジェームズ。怪我をした野良猫だったボブ。苦境の中にいた二人は出会い、お互いに支えあって色々な障害を乗り越えていきます。お互いに信頼しあっているその姿に、多くの人々が微笑ましさや健気さを感じ、同時に勇気を与えられたことでしょう。二人の活躍は、YouTube や Twitter などでも確認できるようです。